すずむし

VOL. 12 NO. 2 25. 8. 1962
倉敷昆虫同好会発行
倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内

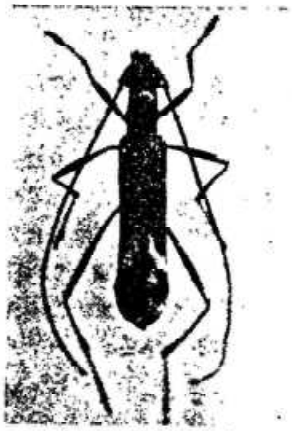
☆おとしぶみ特集号☆

高梁市臥牛山のカミキリ数種

1962年5月13日、高梁市臥牛山を訪れた。その際、中腹から頂上付近にかけて数種のカミキリを採集したが、中にベーツヤサカミキリ、トウキヨウトラカミキリの珍しい種が含まれているので記録しておく。同定、ご教示をいただいた平田信夫氏、写真撮影に、ご援助いただいた小野洋氏に深い謝意を表します。

1. *Leptoxenus ibidifomis* Bates ベーツヤサカミキリ

1♂、本種は台湾、九州、本州等に分布するが、本州での記録は非常に少なく、中国地方では初めての記録と思われる。臥牛山の松山城跡が国宝に指定され、また、早くからこの山が営林署の管轄にはいつて保護を受け、470種に及ぶ草木が原始林の形で温存されていることが、暖帯樹種の多い樹相とあいまつて、本種のような南方形のカミキリを記録させる結果になつたと考えられる。頂上付近で採集された。



ベーツヤサカミキリ

2. *Clytus yedoensis* Kano トウキヨウトラカミキリ

1♂、本種は中国山地の一部で既に記録されているが、東京近郊を原産地とする本州特産種である。岡山県では初記録と思われ、中腹の灌木葉上から採集された。

3. *Pidonia* (*Pseudopidonid*)
mentata (Bates, 1884)
セスジヒメハナカミキリ

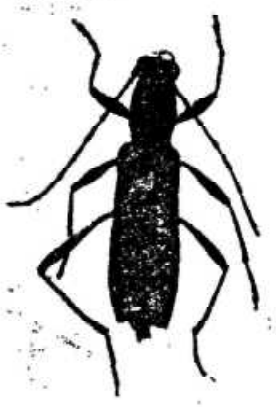
1♀、中腹のノリウツギの花上から採集された。

4. *Pidonia* (*Pseudopidonia*)
debilis (Kraatz, 1879)
チヤイロヒメハナカミキリ

8♂♀、中腹のノリウツギの花上から採集された。

5. *Pidonia* (*Omphalodera*)
puziloi (Solsky, 1873)
フタオビノミハナカミキリ

14♂♀、最盛期と思われ、花上で交尾しているものを数多く認めた。ノリウツギの花上から採集された。



トウキヨウトラカミキリ

（青野孝昭）

オオキトンボ(*Sympetrum uniforme* Selys)を採集

昨年10月矢掛高校生物クラブの石井君に案内していただき、笹田の高津池に行つた時、ヨシの群生地上を飛翔するオオキトンボ数頭を発見、2♂を採集した。　又、翌日石井君が1♂を採集持参された。　オオキトンボは昔は日本各地に産した様であるが、今は殆どその姿をみず、近くでは香川県、愛媛県に産することを聞いている。岡山県ではその記録をみないのでここに報告する。

オオキトンボ　　真備町笹田高津池
　　15－Ⅹ－1961　2♂
　　16－Ⅹ－1961　1♂
　　（林　憲一）

サナエモドキ(*Gomphus Postocularis* Selys)を採る

去る5月2日小田川の岸を歩いていた時、真備町猿掛附近の川岸でサナエモドキの脱殻を採集した。　又5月6日矢掛高校石井君が1♂を同地附近で採集され持参された。

サナエモドキは割合広く産するものであるが、県南部では記録がない様なので報告する。

（県北では安東氏の「作東の蜻蛉」（本誌Vol 6 No.2）がある）

サナエモドキ　真備町猿掛
　　2－Ⅴ－1962　脱殻1
　　5－Ⅴ－1962　1♂

この脱殻は近畿地方のものと比べ、オ八腹節の背棘が顕著である。

（林　憲一）

岡山県南部の蝶分布資料

筆者が一昨年編算した岡山県南部の蝶に対して2.3.の人から連絡を受けましたので、"すずむし"紙上を借りて発表さしていただきます。

○　ダイミョウセセリ
東山公園、（岡山市）藤原（富松氏より私信）
本種の総社　－　金山以南の記録は従来、竜の山口が知られているのみである。

○　ウラゴマダラシジミ
三石町1959.6.8.2♂富松
本種も県南では竜の口と黒田が知られているのみである。

○　ウラキンシジミ
三石町　1959.6.8.　富松

○　ゴイシシジミ
朝日校校庭　1958.7.　富松

○　トラフシジミ
朝日校校庭　　富松

○　スミナガシ
児島郡興除村東瀬地区……生徒採（槇本氏より私信）

富松氏は岡山市古京に在住で丸善書店勤務のかたわら非常に精力的に採集されているようである。貴重な資料を提供くださつた富松、槇本氏に紙上ながら感謝いたします。

（赤枝一弘）

ウラクロシジミ県内に産す

次のとおりウラクロシジミを記録しましたので報告します。尚本種は中国五県では本県のみ未記録であつたと思います。

37年7月13日　2♂　苫田郡上斎原村
37年7月15日　4♂　苫田郡上斎原村

産地では飛しようしているものがかなり見られますが、他のゼフイルスの様に葉に止ることは殆んどなく、常に飛んでいるようです。

午后3時30分頃から暗くなるまで見られますが、　Oゼフイルスと混棲しており、白く輝くのですぐ見分けられます。とび方も多少ゆるやかです。食樹のマンサクは私自身、見分けられませんがブナの生えている一帯の高度の場所に見られました。

（道信　順）

スギタニルシジミ県内に産す

スギタニルリシジミを次のとおり記録しましたので、岡山県の蝶類分布の参考になれば幸です。今まで「那岐山の近く」という報告がある様ですが、那岐山は県境のため、はつきりしませんが、県内に確実に産します。

4月29日　62年　1♂　勝田郡勝北町

5月5日　62年　3♂　苫田郡鏡野町志畑、尚同定は九州大学白水先生にしていただきました。深謝致します。

（通信　頃）

トラカミキリの羽化

1961年もくれ、正月ごの手伝いをしていたが、つくのはえらいし、ついばむ楽しみも、わずかなもの、じつとしていては寒いし、結局落着いたのがかまたき、最近は燃料も、どんどん進歩して、どこの家庭でも、薪など、あまり用いなくなつたようであるが、こうした行事には、薪もたかれるようである。あたたまりながら、よく乾燥している薪を割つていたところ、はじめは、暗いので気付かなかつたが、よくみるとポロポロと白い幼虫が、おちているのに気付き、さつそくこまかくわつては、虫集めを始めた。あたたかいし虫はとれる。これこそ一石二鳥、調子づいてぞうさなく5～6はかた付けてしまつた。

軽くて粉を沢山ふいている様な薪からは、やはり沢山採集できた。さつそく、集めた幼虫を、古い標本箱におさめた。木片等も一緒に入れてやつた。ガラスバリでよく見えるので、観察するのに都合がよい。木片と一緒に念のために軽くてよく虫の食つた薪を、そのまゝ5～6本いれた。その中には、薪の皮と幹の間に寄生蜂（5月29日現在まだ羽化せず）の繭（2～3個）と思われるものもあり、楽しみは増した。

1～2ケ月たつにつれて、幼虫をはだかで取り出したものは、体が黒く小さくなつて、次々と死んでしまつた。ところが5～6本の薪のまゝで入れておいたものから、5月中旬～下旬にかけて、キトラカミキリ8ex エグリトラカミキリ1ex の羽化をみた。

標本箱中に残された食痕からみて、冬から春にかけ、羽化するまでにかなり食餌するようで、これら枯木を食すカミキリにしても、やはり、薪のまゝで飼育することが望ましいようである。

昨年11月6日～8日、山口県の秋吉台荻芳洞入口附近のネムノキで幼虫4exx を採集。

さてはスネケブカコバネカミキリの幼虫ではないかと、多いに期待してネムノキを与えて丹念に飼育したが、3頭あいついで死に、1頭は比較的長く生息したがこれも失敗に終わつてしまつた。

（近藤光宏）

アカスジキンカメムシ5令ニンフ羽化す

写真のように逆立の体位で羽化

去る1962年5月20日、本会の青野孝昭氏及び筆者弟とともに高梁市玉川町玉（伯備線広瀬駅下車）から滝山への採集コースで、本種*Poecilocoris lewisi* Pistant の終令幼虫（才5令）を記録した。道べりで地上1m位の濶葉樹（ナラガシワ？）の葉上に静止していたもの。今日一早く本種近縁ニシキキンカメムシ成虫の食餌（幼虫の食餌については目下研究中）、と思われる。ツヅラフジを付近で、それも、かなり広域に発見することができ、もしや、そのニンフではないかと胸をはずませたが、ニシキキンカメムシの成虫発生は、経験したところでは、4月下旬～5月上旬であることと、かつて1960年、5月22日本会の友野、青野両氏等と同コースを当地から美袋へフイールドの際、ほぼ同一地点のヌルデかノグルミ、の葉上にいたアカスジキンカメムシ成虫の記録のあることから、本種幼虫であることがわかり、更に日本幼虫図鑑P97で確認することができた。

それによると「かめむし上科の多くの種が、成虫態で越冬するが、本種は終令幼虫（体長約11.5㎜）で、落葉間等で越年し、初夏の頃羽化する。寄主植物は、ウワミズザクラ、エゴノキ、ホオノキ、ヤシヤブシ、ウルシ等多くの濶葉樹の実」とある。原色日本昆虫図鑑にも稀れであると記されているが、それを裏付するかのように、筆者のこれまでの記録をみても、点在しているようである。

29,V,1952　鉄倉市鉄倉八幡境内
修学旅行時ツバキの葉上にて　1ex

年・月・不明　児島郡彦崎タコラ山
1ex

22,V,1960　高梁市玉川町玉
1ex

20,V,1962　〃　今回の記録
ニンフ 1ex

なお本誌には、これらのほかに大山での記録も記載されていたと記憶している。

採集して2日目の5月22日、筆者宅の金網製飼育箱の中で折からニシキキンカメムシを飼育中のツツラフジ葉上で逆立の体位で羽化していた。観察した時は、羽化まもなくとみえて、赤色のすじは、全く乳白色であり、かなり時間をへて色彩をみた。現在は、仲良く与えたイチゴを一心に吸収している。

羽化したのが5月22日であり、当地で成虫を記録したのが、2年前の5月22日、こうしてみるとあたりまえのことながら、不思議な思いがしないでもない。

（近藤光宏）

ヨコズナツチカメムシ備中広瀬に産す

Adrisa magna Uhler　ヨコズナツチカメムシ　6exx　高梁市玉川町玉（伯備線、備中広瀬駅構内）　2・Vi・1962

当日は、午後から小雨の降る悪天候でしたが、飼育中のニシキキンカメムシの食餌を採るのが目的で、遅くから（倉敷発17.14）出発した。

当地も雨でしたが、夕ぐれまでになんとか食餌の採集を終えて、山をおりる頃には、すつかり暗くなり、谷川の水は一段と勢いを増し、単身の心細さを感じながら、広瀬駅に着く、それから上り列車を待つ40分位の間に同構内の燈火を訪れていた本種6exx を難なく採集することができた。

強くはないが、カメムシは特有の悪臭を持つており、大きなツチカメムシの1種位に思いその時は、さして興味はなかつたが、帰宅して北隆館「日本昆虫図鑑」で同定した結果稀れであることがわかつた。

当図鑑によれば「体長18㎜。光沢ある黒褐色土中に棲息し、本州、四国、九州、台湾、支那に産する。稀れであるが、時に多数燈火に飛来することがある」。採集当時は、やはり土中から飛来したのであろう。体の各部に多量の土を付けていた。

燈火を訪れる虫数、特にカワゲラ鱗翅目は多く、先月5月20日に同行した青野氏と当地の夜間採集について話したばかりでした。

近藤光宏

トラフシジミその後の記録

1962年5月6日、日羽（伯備線日羽駅）の対岸通称、草田付近の高梁川堤で、本種3頭を目撃し、うち新鮮な2頭をネットした。

なお裏のトラ様斑紋は、極めて鮮明である。

近藤光宏

ハッチョウトンボの新産地

本種についての県下の産地は既に数か所が知られている。筆者は、これらとは別に倉敷市内から本種を得ているので、こゝに報告しておく。

3♂1♀, 1960－Viii－5, 倉敷市呼松町

当日は、倉敷市立福田中学校の生物クラブ採集会として、現地を歩いたもので、アカマツの優先する山間湿地に生息しているところを発見したものである。生息地は、鴨辻山の西側中腹にあたり、渓谷のやゝ平坦な一郭で、付近からは同じような生息地は見つからなかつた。なお、鴨辻山の頂上からは水島灘と水島工業基地が眺 に展望でき、すばらしい眺めを満喫できる。

（青野孝昭）

倉敷でムラサキツバメを記録す

下記のように*Arhopala bazalus turbata* BUTLER ムラサキツバメ♂を採集したので報告します。

倉敷市連島町宮之浦　22・X・1960

本種は右燕尾状突起破損している他、ほとんど完全である。付近には、よくわからないがカシの類はかなり見られ、ムラサキシジミも相当発生していた。またこれまでの記録をみても当地が県下の最南にあたるようである。

（小野義正）

倉敷昆虫同好会と倉敷昆虫館との関係

(1) 倉敷昆虫同好会（以下同好会と略す）は重井衛生害虫研究所（以下研究所と略す）に連絡事務所を置く。

(2) 同好会はその幹事を研究所に理事としておくり，研究所の運営に参与する。

(3) 研究所は標本展示室（通称倉敷昆虫館）、昆虫飼育室等を同好会員に開放し、その利用に便宜をはかる。

(4) 研究所は同好会員の出品した標本等の保管に万全をつくす。

Scoliidae ツチバチ科採集品目録

近藤光宏

筆者は，1950～1961年の間にツチバチ科7種（「日本昆虫図鑑」北隆館発行）の中6種を記録していたので次下に一応報告します。

1. *Scolia japonica* Smith　オオモンハラナガツチバチ
   倉敷市黒田　1♀　VII・29・1950
2. *Scolia oculata* Matsumura　キオビツチバチ
   高梁市　1♂　VII・6・1950
3. *Scolia vittiforans* Saussure　アカスジツチバチ
   広島県宮島　1ex　VI・26・1960
4. *Campsomeris schulthessi* Betrem　ハラナガツチバチ
   倉敷市黒田　1♀　V・10・1959
5. *Campsomeris prismatica* Smith　キスジハラナガツチバチ
   倉敷市酒津　1♀　VII・15・1950
   倉敷市黒田　1♂　VII・29・1950
6. *Campsomeris annulata* Fabricius　ヒメハラナガツチバチ
   採集地不明　2♂♂　年・月・日不明

ツチバチ

ツチバチ科は，草原，河辺の堤などに多発し一般に土中にもぐり，コガネムシ類の幼虫に産卵する。即ちコガネムシ類の有力な天敵である。

倉敷の酒津堤は，ツチバチ科の多発するところで，早いものは春もすでに4月頃から体に土を付着して，草の中を，たくみに分け入る活発な姿をみることができる。本種の観察には，恰好な場所でもある。

なお，ツチバチ類の雄雌の区別は比較的容易で，雄は，腹端に3箇の針状突起をもつているので雌とはすぐ区別できる。また触角も雄が長い。

倉敷昆虫同好会員の倉敷昆虫館への標本出品規定

1. 会員は倉敷昆虫館（重井衛生害虫研究所の標本展示室）に昆虫の標本及び生態写真等を出品することができる。

2. 出品希望者はその標本等を倉敷昆虫館内の本会連絡事務所宛にとどける。

3. 出品標本の体裁は次の通りとする。

   a 標本箱は倉敷昆虫館で用意したもの志賀製（ドイツ型）を使用する。

   b 針はステンレス、または、洋銀製とし、４０㎜長のものを用いる。

   c 成体標本は、針頭から約１２㎜の位置に虫体背面がくるよう高さを揃える。但し、展翅標本は、針頭から約１８㎜の位置に翅表面がくるようする。

   d ラベルは倉敷昆虫館で用意したものを用い。下記の要領で書く。

   Ⅰ 岡山県産は青ラベル、大山産は緑ラベル、県外産は赤ラベルを用いる。

   Ⅱ 大形昆虫にはラベル、小形昆虫には小ラベルを用いる。

   Ⅲ 産地名は日本語を用い例図のような形式で書く。

倉敷市幸町 V. 1 1962 T・Yamada

都窪郡山手村 福山 V. 1. 1962 山　田　太　郎

   Ⅳ ラベルの高さは下から５㎜に揃える。

   e できるだけ完全標本に限る。但し、珍品は例外とする。

4. 出品標本等の配列、位置等は一切、当同好会の幹事に委任する。

5. 出品された標本等の保管は、倉敷昆虫館と本会幹事が責任をもつてこれにあたる。

6. 出品標本等は出品者の申出により随時返却する。また会員の意志によつては、倉敷昆虫館への寄贈も申し受ける。

☆新着交換雑誌

ひらくら63	1962, Ⅲ, 1	三重昆虫談話会
藤原岳の昆虫	1961, Ⅷ, 31	三重昆虫談話会
Odonata 15	1962, Ⅱ, 22	日本蜻蛉同好会

広瀬方面採集会

雨天のため、二度とも延期されていた採集会も、6月17日はつゆまえのからりとはれた好採集日和、参加された方も新しく顧問になられた重井先生をはじめ、数多の中、高生徒とともに一日楽しく採集、観察をいたしました。

採集参加者

（アイウエオ順）

青野孝昭	中田勇二
猪原幸生	那須節子
大野憲一	那須　敏
小野　洋	松浦茂夫
近藤光宏	三宅幹雄
重井　博	守屋雅之
田中耕一	安延　章
中田久義	

以上15名　峠にて記念撮影

目　　次

青野孝昭　高梁市臥牛山のカミキリ数種……1
林　憲一　オオキトンボ（*Sympetrum uniforme* Selys）……2
林　憲一　サナエトンボ（*Otanylus postocularis* Selys）……2
赤枚一弘　岡山県南部の蝶分布資料……2
道信　順　ウラクロシジミ県内に産す……2
道信　順　スギタニルリシジミ県内に産す……3
近藤光宏　トラカミキリの羽化……3
近藤光宏　アカスジキンカメムシ5令ニンフ羽化す……3
近藤光宏　ヨコズナツチカメムシ備中広瀬に産す……4
近藤光宏　トラフシジミその後の記録……4
青野孝昭　ハツチョウトンボの新産地……4
小野義正　倉敷でムラサキツバメを記録……5
○ 倉敷昆虫同好会と倉敷昆虫館との関係……5
○ ツチバチ科採集品目録……5
○ 倉敷昆虫同好会員の倉敷昆虫館への標本出品規定……6
広瀬方面採集会……7

医療法人

重井病院

倉敷市幸町　TEL 2975
3215

光学器機・めがね

志賀の昆虫採集用具

有限会社　平田光学

岡山市中之町27　TEL②5475